

# 支那だより

No. 8



表紙によせて： 宇治の山々と深い樹々に囲まれた喜撰山揚水発電所

APRIL 1976

副支部長のことば／名所と技術開発  
特集・中堅土木技術者の生活と意見  
瀬田の夕照／インタビュー／その他



## 土木技術と行政 および人間社会

土木学会関西支部

副支部長 竹元 千多留

略 歴

タケモト チカマサル  
竹元 千多留

大正11年1月20日生れ。  
昭和20年京都大学工学部土木工学科卒業。直ちに大阪府に奉職 以来、道路、河川、港湾事業に従事した。昭和36年より徳島県、広島県、大阪府の道路課長を歴任し、昭和45年より和歌山県土木部長を経て、昭和48年より大阪府土木部長。

土木技術と人間社会の出逢いは、人類が地球上にその足をのこしたときに始まり、現代を通り、将来へと永々と引き継がれていく。原始時代は、地震を神の怒りと怖れ、強風や洪水には安全な土地へ避難するなど、克服できない自然現象には逃げの姿勢しか持ち合わせていなかった。



## 土木技術と経営 および人間関係

土木学会関西支部

副支部長 浜野 春雄

略 歴

ハマノ ハルヒコ  
浜野 春雄

大正9年5月1日生れ。  
昭和19年北海道大学工学部土木工学科卒業。同年満洲国政府交通部勤務、大同学院入学。昭和21年(株)鹿島組入社、昭和43年鹿島建設(株)大阪支店土木工事部長に就任、以来木津川、大阪築港、大阪中部各出張所長理事を兼務し、木津川大水門工事、南港連絡橋下部工事、毛馬排水機場建設工事を担当、昭和49年工事部長、重役待遇理事に就任。

わが国経済は今や回復の方向へと必死の努力を続けているが、世界各国とも不況問題に喘いでいる。この度先進六か国首脳会議が開催され、ランブイエ精神とも云うべき協調精神時代の幕あけとなり、総論は確立された。しかし、各論の具体化は、東西問題、南北問題等極めて複雑であり、非常にむつかしくなお視界零と云われている。

都市国家が育つ時代からは、治山治水 交通網の整備 築城など、人間社会の開発のために積極的な姿勢をとってきた。このような技術開発のもとになったのは、とりもなおさず土木工学であって、諸先輩らのあらゆる分野での活躍のたまものである。

日本における土木工学の社会への貢献も、広く深いものであったが、欧米文化を直輸入して華やかな開花した近年において、土木工学から分れた機械、電気などの部門を工学の主流と誤る人もみうける。しかし 土木工学の目的は、自からの施工分野にとどまらず、人間が築く社会基盤の枠組や、それぞれの分野への業務の割り当てと 組み立ての戦略頭脳部門の責任である。その意味では、土木工学を習得された多くの諸先輩が、たんなる技術責任者にとどまらず、行政の中心となって 広く活躍されているのをみる。

近代になって科学はますます多様化して 計

量的に取り扱う必要性が高まり、従来の量を中心としたもののほかに 質を重視した環境管理へと巾広くなってきている。これらの複錯化する要求を整理整頓し、社会を幸福へと導く業務が土木技術者への課題となってきた。

将来の社会はどのように発展していくだろうか？ 近い将来はさておき 遠い将来を夢想することはできても これを正確にいいあててことは至難である。しかし 人間社会があるかぎり 人間社会の要求をまとめて組み立てる戦略としての行政が存在し、土木工学はますますその重要性を増していこう。

土木技術を身につけた多くの先輩が、既に国会や 地方議会にあるいは中央官庁や 地方自治体の政治 行政の最高の責任者として広く活躍されておられるのは慶びにたえない。さらに、多くの土木技術者が新しい技術を体得し、人間社会の政治 行政の責任者としての自覚をもって、あらゆる方面での一層の活躍を期待します。

かような世界情勢下にあって、わが国の土木技術のあり方もおのづから複雑であり、当面の問題解決の為の研究開発はもちろん、新分野開拓のための研究開発に努力する必要がある。これらのテーマは非常に盛沢山な内容であるが、技術研究の立場から見ればいずれも重要であり、この雑多で広汎な問題をいかにペースに遅れず進めてゆくかが、われわれの重大な責務である。

会社経営の最大目標といえば、受注の拡大と利益率の向上である。しかも、社会的ニーズである新しい資源エネルギーの開発、省力化、環境開発、公害防止などの動向を勘案の上選定されねばならぬ。更に、環境公害問題が社会的な問題としてクローズアップされるにしたがって、問題の早期解決、施工の合理化、トラブルの解決など、直接間接に技術指導し、利益率の増大、コストダウン、企業者への信頼向上にまで持ってゆかねばならぬ。

私が常に掲げている管理者の任務とは、I 科

学的管理の実行者である事。 II すべての部下の育成者である事。 III 企業革新の推進者である事。 IV 人間関係の指導者である事。 V 顧客創造の促進者である事。 VI 安全意識の中心人物である事。 VII 品質意識の昂揚者である事。などである。しかし、私自身これだけ全部を守る事がいかに難しいかを今なお痛感している。

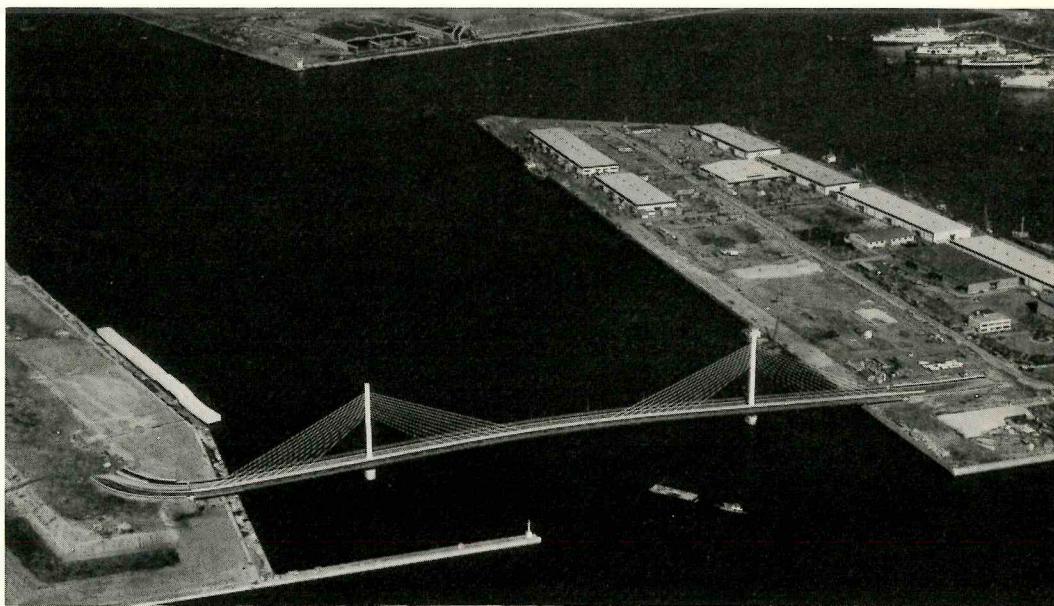
この中で特に難しいのは人間関係である。事業の経営をやってゆく上で、チームワーク位必要なものは無い。これを確立するためには、各人のモラル及愛社精神の昂揚を計るように努力する事であろう。そのためには、全社員に対して常に夢と希望のある目標を与えるとか、家族ぐるみの親睦を計る等々に力を入れる事も必要であろう。

生き甲斐を感じて真剣に邁進しているグループ位、強い企業はないとしみじみ感じている。とにかく、早期安定経済の実現により、日本の幸せを祈ってやまない。

## 土木の視界

## 名所になるような橋梁と技術開発

近 藤 和 夫

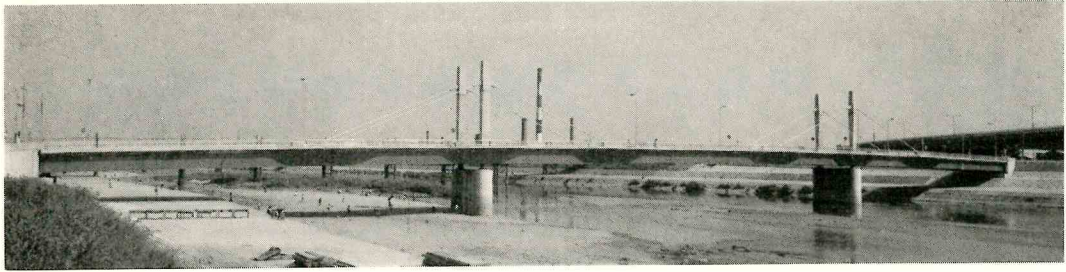


かもめ大橋

今、私の手元に、広重画くところの東海道五十三次につき、簡単な解説を加えた小冊子があります。絵や版画に格別の趣味や知識をもち合わせてはいませんが、この続絵は五街道の一つである東海道の江戸から京に至る間の点描であれば、江戸末期の交通輸送路を知るよすがとして、興味深いものがあります。事実、僅かな例を除いては、道・松並木・渡し・橋あるいは石垣が随所に画かれています。広重の版画はきわめて抒情に富む浪漫的な作品で、自然の変化を通して自然を表現し、旅愁がそのまま画面になっているといわれていますが、土木構造物も、このように旅愁を感じさせる主役であり、あるいは脇役でありたいと思います。なかに3,4枚川越えの絵があります。幕府は軍事上の目的から、橋はおろか、渡し舟すら設けなかったようですが、旅人にとっては大変な迷惑であったでし

よう。やりきれない違和感を覚える風景で、やはり一条の橋の画かれていますの方が、私にとってははっきりすると感じます。同じ広重の傑作とされるものに、地形急峻な難所にかかる甲斐猿橋があります。

甲斐猿橋は、古来より日本三奇橋の一つに数えられ、刎橋と称せられる形式の橋です。刎橋はまた肱木橋ともいわれ、両河岸に埋め込んだ数段の片持梁の間に、単桁を渡した構造です。古橋にはこの他越後愛本橋、信濃雑炊橋等数橋の例がありますが、非常に高度な技術をもつ特異な形式で、しばしば画材にもなっています。大阪市で戦前に、よく施工された掘式鋼突桁橋が、完成した系としては、やや類似の形式となりますが、刎橋とせざるを得ない架橋条件には、前者の方がはるかに厳しいものがあります。もし、猿橋が平凡な木桁橋ならば、画材とはなり得なかったと思いま



大 和 橋

す。橋の「技術」が画の主題となり、人々に親しまれるようになった典型的な例といえましょう。

昔から浪華の三大橋とは、天満・天神・難波の各橋を指すことはよく知られています。新淀川の開削される前の大阪では、この三橋が飛び抜けて長い橋であったことは確かです。現在のわれわれは、短い径間の繰り返しによる変哲もない長い橋などには興味をもちませんが、昔はその経済力から考えても、単に長い橋というだけで偉大であったようです。さらに、明治18年の淀川洪水後、21年に再建されたトラス橋の天満・天神両橋に、驚異の目がむけられました。天神橋の215フィートのスパンは当時最大のもので、峻立する立派な橋脚、夢想もしなかった長さを一跨ぎする力強い主構に、文明開化の技術を誇り、進んで中之島に受け入れたと思います。中之島は、周辺が木造家屋ばかりの、洋風建築のなかった頃で、一きわ橋の目立つ環境にあったと考えられます。

しかし、中之島周辺も次第に近代都市としての様相を整えるにつれ、時の人々は、余りにも露骨に実用的なトラス橋は、中之島にふさわしくないと考えたようです。古い橋で耐力が不足したこともあるでしょうが、中之島の環境にふさわしい橋へと、昭和の初めにさっさと架け換えています。天満橋は重厚な感じの鋼ゲルバー桁、天神橋は40年後の今日でも近代性の勾う鋼アーチで、当時の技術と美学の粋を集めた橋です。旧橋の自己主張性とは反対に中之島の景観にとけこんで、画龍点睛となっています。また、浪華の人々が機能面ばかりを重視するものでないことは、難波橋の例をみてもわかります。大正4年竣功の難波橋は、最近老朽のため架け換わったものの、外観は往時のままで、橋詰のライオン像とともに、中之島そのものとなっています。これらの橋は、大正・昭和の最新技術とともに、中之島に安住することになるでしょう。

橋が「名橋」と呼ばれるための条件を考えてみますと、車または人が安全快適に渡り得ること・洪水、地震等の自然災害に強いこと・姿、形が美しいこと・周囲の景観に調和していることなどを列挙することができます。しかし、これだけでは何か物足りないように思います。「名橋」と呼ばれる橋には、この他に個性があるということを付け加えたいと思います。その橋のたもとに立てば、人々に安心感や力強さや、やさしさ、何らかの印象を与えるものをもっていることが大切です。難波橋といえはすぐライオンの像を、天神橋といえは美しいアーチの曲線を想い浮べるようなことも、その一つといえるでしょう。個性は周囲の景観や、その橋が迎ってきた歴史の反映である場合もありますが、最も重要なことは、橋の個性とは、その橋の設計にたずさわった設計者の意志が強く反映されていることと思います。

写真は昨秋完成の大阪南港の「かもめ大橋」と、大和川下流部に架かる「大和橋」です。どちらも斜張橋ですが、かもめ大橋は橋長440m・主径間240m・幅員20.5m、鋼床版梯形箱桁のマルチケーブルタイプで、特にマルチケーブルという点に特色があります。大和橋は摂津名所図会巻一に「堺大和橋」として画かれている橋の後身です。図会では20径間になっていますが、現橋は写真の通り中央径間83m、側径間54mの小型の3径間連続斜張橋です。余り目立たない外観ですが、塔が鉄筋コンクリート、主桁が連続合成桁という点で、わが国では唯一の技術内容をもつ橋です。前者かもめ大橋は、目下のところ広漠たる埋立地において、一服の潤いを与えていると、自画自賛はよいとしまして、今後この橋が南港の象徴となり得るかどうか、21世紀の判断に待たねばなりません。

(大阪市助役、工学博士)



# 中堅土木技術者の生活と意見

## 会員へのアンケートより

### §1 ま え が き

ここ2年間位のうちに、石油ショック・列島改造論の破綻・視界ゼロの不況・景気刺激策と、われわれ土木技術界を取巻く経済・財政情勢は変転を重ね、一方では、在来の純技術的思考を越えた環境アセスメント・住民コンセンサスの問題も避けて通れないものとして大きくクローズアップされてきた。

こうした転換期の中で、新しい対応を摸索しつつ、中堅土木技術者が何を考え、どのような生活を送っているのかをさぐり出して、支部会員諸氏の御参考に供

するため、編集幹事会は昨年(昭和50年)末にアンケート調査を行なった。

「中堅」の定義は難しいが、就職後数年ないしは10年を経て、各職場で活躍している30才過ぎの世代と考え、支部会員中、昭和18・19年誕生の全員(約400名)に80問におよぶアンケートを発送し、約140通の回答を得た。この中から丁度100人分を集計したところ、たまたま31・32才各50人となった。以下4つのジャンルに分け、興味深い点を拾って紹介する。

### §2 職場と収入

まずアンケート回答者100人の現状を頭に入れるため、勤務先を見ると図-1のように分布している。年齢が揃っているにもかかわらず就学年数の差もあって、勤続年数は最長17年、最短3年まで分布しているが、7～8年の人が46%を占めている。

次に、現在の仕事と職場に対して70%の人がマズマズ満足のようなのであるが、一方不満な人も30%ほどある。これは、仕事の内容よりも経済的不満の方が多いようだ。

ここで、経済的不満に関連する収入面の分析を行なってみよう。勤務年数7年のグループをモデルにとって平均すると、就職した昭和43年には月収33千円、年収63万円であったのが、昭和49年には100人の総平均で月収15万円、年収240万円と高度成長を遂げている(図-1)。その中でも最低130万円と最高390万円とで、3倍にも及ぶ格差がある。これ程の格差があれば、低収入の人に経済的不満が集中しそうだが、100人を年収別6階層に分類して比較すれば、必ずしもそうではなく、高収入階層にも結構経済的不満が存在する(表-1)。このような傾向は、「貴方の働きに相応しい年収は？」との設問に対し各階層共、昭和49年の年収より約100万円アップした金額と考えていることにも示される(表-1)。このことは、また、願望できえもが現実生活に拘束されてしまい、その拘束から脱却できな

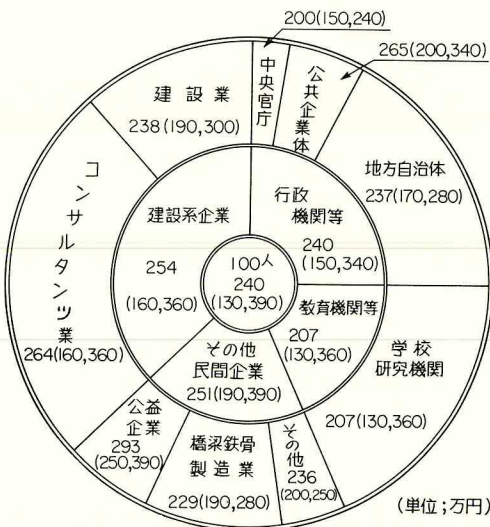
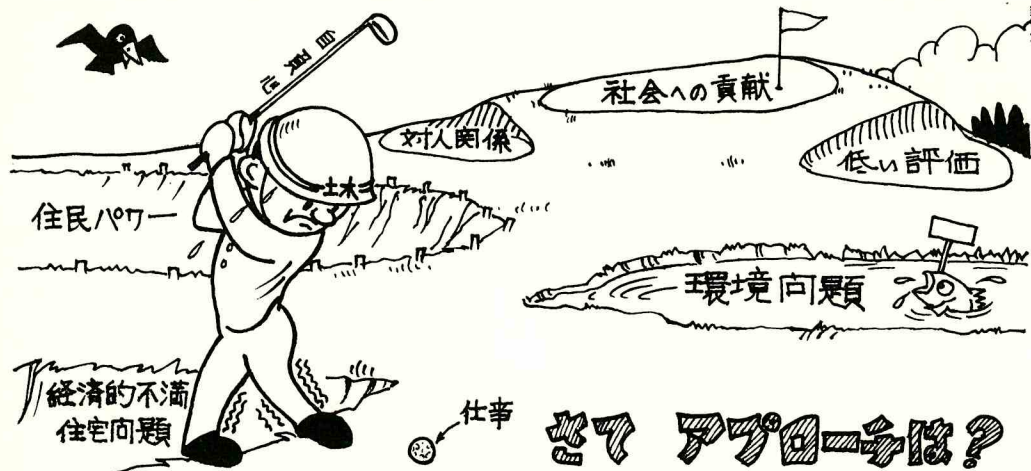


図-1 勤務先と昭和49年の年収・平均(最低・最高)

表-1 収入階層別経済的不満率、および相応年収

階層	I	II	III	IV	V	VI
昭和49年平均年収 (万円)	166	200	227	250	271	327
人数(%)	14	16	21	19	15	15
経済的不満率 (%)	43	38	48	42	12	21
勤労対価相応年収 (万円)	264	294	314	340	378	420



いでいることを示しているともとれないことはない。  
次に職務内容で、ウェイトの高い順に集計(複数回答)すると、企画・立案62%, 協議52%, 研究38%, 設計・製図36%, 積算, 施工管理各25%ほどとなる。また、新しい傾向とみることができるのは、コンピュータ利用に関して高度なプログラムをこなせる人17%を含め約半数がプログラムを組むことができ、自分で常時利用している人が1/4にもなる点であろう。

職場の組織はライン型70%, スタッフ型30%であ

る。対人関係では、70%が部下と友人並みに接しているが、上司に対しては一応相手を立てるのが85%と圧倒的で、友人並みは2%に過ぎない。新旧世代の接点に立って、新しいヒューマン・リレイションの方向を摸索している姿を表わしている。さりとして、定年まで今の職場で頑張るのはわずか5%で、逆に良い所があれば転職をねらう人が27%、既に転職経験者も12%あって、従来の所属機関への忠誠第一の時代は遠くなったようだ。

### §3 学問・技術・学会

アンケート対象者を学歴別に見ると、非会員土木技術者と較べ可成り高学歴であると思われる(表-2)。表-2に49年の年収も併記してあるが、データの少なさ・偏りを恐れずに言うならば、高学歴高賃金との世間の常識とは逆に高学歴ほど低賃金となっている。

専門分野として土木の道を、自らの意志で選んだ人が65%あるが、中でも“青雲の志を懐いて”という積極的なのが14%あるのは心強い。また、小中学時代に進路を決めた人が16%もあることを考えれば、より早期に土木に関する理解を深めるようPRしていかなければならないようだ。

もっと勉強しておけばよかった科目として、専門科目では構造力学, 土質力学, 水理学, 一般科目では数学, 外国語の他に法律12%, 経済7%を挙げている人があることが特筆される。

卒業後も、専門書を年5冊以上購入する者が60%に達し、学会誌・論文報告集も55%が必要な内容を精読

表-2 学歴別昭和49年収入(税込)比較表

就職時学歴	最終学歴	人数	平均勤続年数	昭和49年平均年収(税込)
中卒	?	1	17年	240万円
高卒	高校	4	13年	240万円
	短大	10	12.6年	251万円
	大学	4	12年	273万円
大卒	大学	52	7.9年	248万円
院卒	大学院	34	5.9年	221万円
工教養卒	工業教員養成所	3	9年	237万円

し、学会活動にも80%の人が参加しており、仲々良く勉強しているようだ。また、学会誌については、「専門的すぎる」13%、逆に「断片的・総花的すぎる」27%との編集に対する意見があった。

### §4 職業・社会意識

まえがきにも触れたように、建設プロジェクトを遂行するに当って直面する最も今日的なテーマは、環境

問題と住民問題であろう。第一線でこの問題に取り組んでいる中堅技術者は、どう受止めているであろうか?

まず環境アセスメントについては、第1番に考慮する(40%)を含め大部分が取組む姿勢を示し、「避けて通る」はゼロであった。従って、建設・開発に取組む国策に対する意識にも変革の徴候が見られ、「自然・環境・文化財の保全に心掛け、生活関連施設の整備に重点を」との方向が90%を越え、ブルドーザーで押しまくる列島改造の発想はどこかへ消えてしまったようだ。結果として日本の未来をバラ色とする楽観論はゼロで、昭和60年は住み難くなっているとの大予言が51%にもなった。また「科学技術の進歩は人類を幸福にするか」との設問に対し、マア肯定的な回答が44%で、疑問を呈する者が53%と上廻っている。

次に「行政に対する住民参加をどう思うか」と自由に書いて貰ったのを整理してみると、エゴや行過ぎと

批判する者16%に比して、これを認め、あるいは評価する考えが51%に達している。中でも、住民の発言が現在では抑えられ過ぎているので、もっと積極的に発言を促し、これを行政の原点に据えて制度的に組込んで行くべし、との住民参加推進型の評価が21%もある。この問題避けて通れない時代を背負って、自らの意識を変革することなしには仕事を遂行し得ない、との健気な心情の発露であろうか？

この健気な土木技術者に対する社会の評価は高いと感じている者6%に反し、54%が低いと考えている。それでも、自然と取組み、作品を後世に残し、社会に貢献出来ることに喜びを感じつつ、88%の人がこの道を選んで良かった、としているのは、何よりも心強い。

### §5 生活・家庭

91人の妻世者を平均すれば、27才で結婚、男児0.73人、女児0.74人を設けている。夫婦共働きは13%と案外少ない。住居は表-3のように、狭い方が家賃を高く支払う矛盾も多い。19人が既にマイホームを入手しているが、昭和41年に延100㎡が400万円、同50年には平均60㎡で1,500万円と恐ろしい高騰ぶりだ。借家住いの人に「2千万円の庭付きマイホームが持てるのは」と、むごい質問をしたところ、定年後が30%、永久に駄目又は持つ気なし、と諦めた者が40%に及ぶ。

家が駄目ならと、自動車の保有率は44%に達する。その他預金・株・宝石等の動産は平均255万円(最高3千万円)貯め、生命保険は平均1千万円(最高4千万円)加入している。小遣は月2.7万円平均である。

過休2日制は隔週も含め44%、検討中に12%を入れ、近々60%に達する勢い。問題は、この休日の過ごし方だが、子供の相手60%、テレビでゴロ寝47%と、金のかからぬものが圧倒的だ。読書・買物がこれに続くが、仕事19%とは、御苦労様である。やるスポーツではゴルフ28%が最高で、野球13%を大きく上廻っている。その他の趣味では、音楽35%、マージャン32%、パチンコ・絵画と並ぶが、絵画については描く人

表-3 住居・所有形態別平均家賃等比較表

所有形態	人数	居住面積	家賃	敷金	購入価格
親の持家	11人	114㎡	—	—	—
マイ・ホーム	19人	63㎡	—	—	820万円
社宅・官舎	25人	40㎡	5千円	—	—
公営・公団	18人	48㎡	20㎡	6.5万円	—
文化・アパート	5人	35㎡	24㎡	41.3万円	—
賃貸マンション	9人	46㎡	37㎡	80.0万円	—
その他	3人	35㎡	10㎡	—	—

が7人と、仲々高尚である。飲酒量は、ビールで平均3.6本(最高12本)、日本酒なら平均約4.6合(最高1升)。煙草は禁煙組が35%、吸う人は平均29本(最高60本)となっている。食事の心掛けとして、飯粒は最後に茶漬をして洗う16%を含め、88%がきれいに食べるようだし、魚は少々骨や蔵物も食べる人が1/3と、戦中・戦後の飢餓の記憶なき世代としては、仲々堅実な生活態度で、来たるべき(?)食糧危機にも心丈夫だ。

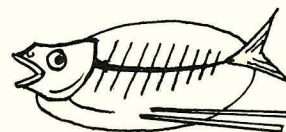
### §6 あとがき

この結果は、積極的に協力して回答を返送下さった人々の集計なので、土木の世界の同年令層一般の意見と異なるかも知れないが、何らかの傾向を示唆しているものと思われるので、会員諸氏の御参考になれば幸いです。

最後に、全80問に及ぶ設問に対し貴重な時間を割いて回答を寄せて下さった諸氏に、厚く御礼を申し上げると共に、全問に対する回答の集計表をコピー原紙にして、当分、保存しておきますので、自分の回答に対

比したい方、又は参考に御入用の会員の方は、支部までお越し下されば、コピーを頒布いたします。

(桜井春輔, 西澤 寛)



## 地方だより

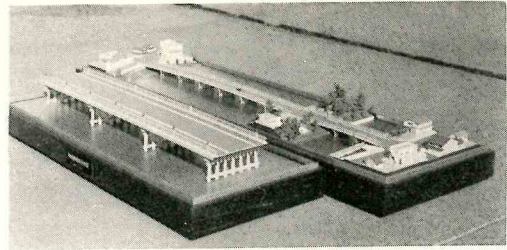
### 瀬田の夕照

#### 滋賀県の巻

瀬田の唐橋は、琵琶湖から流れ出る瀬田川にかかる橋で、地理的にも京畿の咽喉部にあたり古来より交通の要衝として「唐橋を制するものは天下を制す」といわれた争奪の的で、古戦場として史上にいくつかの事例をみることができ。一方、詩歌にも数多く詠まれ、とくに近江八景の一つとして「瀬田の夕照」と多くの人々に親しまれる名橋でもある。

現在の橋架は大正13年に古い形式をそのまま保った単純工型鋼桁橋として架設された。しかし近年の通過荷重の増大、老朽化がはなはだしく昭和49年度より架換えることになった。由緒深い景勝の核としての名橋なので、京都大学小西名誉教授を委員長とする「瀬田唐橋架換対策委員会」を設け、美術 歴史 建築等各界の権威の方々の御意見をいただいて計画をまとめた。審議過程で特に議論の中心になったのは径間長で、それに伴う桁高、橋脚躯体の外観形状である。

唐橋のイメージは江戸時代に画かれた広重でも橋脚数の多い短径間であり、現橋も10mなので、古来の姿をできるだけ忠実に保存するために短径間橋が望まれる。一方、流水の疎通を目的とした河川工作物設置基準の意向と相反する



ため模型や比較図を作成し詳しく検討するとともに、河川管理者とも調整して、最終的には径間25mと決定した。

桁高は前述径間長に基づきできる限り低くすることを目標に単純鋼合成桁、鋼床版箱桁、単純PC桁等比較検討した結果、単純鋼合成桁とし、歩道をマウンドアップせずに橋面横断勾配に合わせて桁高を夫々に変え、とくに端耳桁の高さを低くし、さらにその外側に桁かくしを設け側面から見た場合の低い桁高を再現した。

橋脚躯体については水上部分は現橋のような鳥居型の躯体にすべきであるとの委員会の意見により、その意匠には気を使い、柱の本数及び寸法についてS.R.C. ラーメン構造を採用して力学的な解を得、現橋構造形状に近づけるべく努力した。

なお水面下1.5mから下はR.C. 壁式構造とし、柱と壁部、受梁部との接合方法等について議論がなされたが京都大学岡田教授の指導に従って基礎はφ800mmの鋼管杭で支持する構造とした。

その他、高欄は擬宝珠つきのものとし銘の入った現在のものを用い、その支間は模型等で検討された結果12.5mの古来よりの形を踏襲した。

以上設計過程において配慮した一部分を紹介したが、関係者の御協力により新唐橋は昭和54年を目途に現在工事中で、竣功のあかつきには現橋にまして人々に親しまれる美しい橋になるであろう。

(渡辺恭平, 齊藤 暉)

# 人物紹介

南 俊 次

関西支部 前支部長

## 銀杯一組を賜わる



「世界に誇る巨大なゲルバートラス橋の港大橋の成果が高く評価され、昭和49年夏に天皇陛下より銀杯を賜られました。そのときの御感想は？」との質問に、当時を回想されながら次のように語られました。

「一口に言って、運がよかったこと、多くの人の協力があったこと です。港大橋の計画は南港埋立事業の早くから叫ばれていたが、巨大物なので、投資的 技術的にいろいろの問題があり遅々としていました。しかし 私としては必ず建設の必要性が認められると信じて努力しているうちに自然に、いや 自然でもなかったかも知れませんが、周りの御協力から着工の命がおりました。こういった大きなプロジェクトに終始一貫して従事できる立場と機会にめぐり逢えたことは、やはり運がよかったと言えるんじゃないでしょうか。

次に、本橋のために日本道路公団から進んで移ってくれた笹戸松二氏を中心に、中小構造物で苦労を重ねてきた阪神高速道路公団の技術陣が、ほんとうに真剣に未知の世界に取り組んでくれたことや、外部から 直接的 間接的に大勢の方々が参画 助力して下さったことなど、日本の総力をあげて協力していただけて有難いことと感謝しています。」

南 俊次(みなみしゅんじ)大正7年の<sup>うま</sup>年生れグループの核の馬力の持ち主も、幼年期は体の弱い絵の上手なおとないし子だったそうだ。「中学生の頃は昆虫採集に熱中し、かなりの種類を集めたのですよ。同好会に入ったり、四国札所めぐりを兼ねた採集旅行に野宿しながら出かけたり、台湾 朝鮮の人たちと交換もしました。近畿の軍事大演習の講評場に、母校の堺中学(現三国丘高校)があてられ、天皇陛下がみえられたとき、私の標本を御覧いただきました。体も丈夫になり、あばれん坊になって、厳しい軍事教練ではクラスの指揮官をやっていました。このことは後に大変役立っています。」

入学試験科目「動物」の蛙の解剖図の出題に、臓器の順を誤って零点。でも得意の英数国漢で全寮制の一高へ。そして陸上部の花形ランナーを目指す。体をこわして、文学 哲学 河合栄治郎の経済学まで手を広げ、モダンボーイで喫茶店へ、ダンディな背広姿でダンスホールへお熱。健康回復して東大の土木への風来坊。「もうこの頃は、学内でも戦雲の近づくのが感じられ、勉強よりもいかに立派に死ぬかといったような、内心では半ばやけくその学生生活でした。」

他の部隊からもきらわれた柄の悪い高槻工兵

隊の将校。急流の淀川に鉄舟をエイヤー、エイヤーと中書島まで漕ぎ上って演習。昼食。頬をなでる川風 真赤に燃える夕陽 せまる天王山の緑の山なみに鉄舟を集めての川下り。なかにはわずかな休憩中に、禪の間に隠しもった軍資金でちゃんと上陸の目的を果して満足気に帰る兵隊もいたりして。人生の幸福とは の4年間。

「就職第一回は大阪府土木部で、道路舗装をやっていましたが、まだまだ技術といえるものでなく、アスファルトも米軍払い下げの南方用のものを日本に合うよう使うのに苦心していたような時代でした。その後 枚方土木事務所の土木行政一般だとか、道路課へ移って橋梁を担当しましたが、橋ではいろんな橋に取り組みました。

日本の橋梁界の 田中 豊 大先生の講義が蘇えて、全溶接の高野大橋、死活荷重合成の古江橋、極端な斜橋の大町橋、PC組立式箱桁の金剛大橋などなど、広く深い知識と湧き出る知恵を大いに活用し、橋梁界で男あり。府下の木橋架け替え基本計画ほぼ完成。

建設省時代は本省での道路政策者として、また中国、中部地建では都市開発からコンサルタントの育成、広島大学の講師と巾広く活躍されて、伸びゆく阪神高速道路公団へ。

昭和40年代「丁度公団の成育期で、自動車時代が既にやってきている都市に、このような高速道路が必要なことを、私共当事者は信じて疑わなかったのですが、実物を知らない人々には でき上って利用してもらうまで なかなか理解してもらえないものです。しかし「何事にも必ず道が開ける」と楽天的に 積極的に取り組んだと思っています。」

と華やかだった公団での道跡を語っていた。現在は、日商岩井(株)顧問を勤められるかたわら 赤字に悩む堺市の庁外参与として 複雑すぎる自治体へ活を と健闘されている。

しめくくりの言葉として

「どうせむづかしいことにはぶつかるなら、むづかしい方がよい。同じ苦勞をするなら、苦勞

のしがいのある方がよい。一流のむづかしさに出遇ったときは、大いに頑張ってやりなさい。まわりにも協力者が現われてきますよ。」と。

漱石ならこのように書いたでしょう。

「生れつきの馬力屋で、子供の頃から損ばかりしている。部長宅にいる時、2階からピーとやって 部長夫人が腰をぬかしたことがある。なぜそんな無闇なことをしたかと聞く人があるかもしれない。べつだん深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、自然にもよおしたまでのことである。」

そのほかの百聞して百見するチン行為の数々は、本誌が権威ある学会の冊子であるため削除。



「おばあさんに伺うと、うちの主人は子供の頃本当に勉強が好きだったそうです。勉強に忙しすぎて、青年期の思想育成といったものもなしに 体だけ大人になってしまったんでしょうか。思い立ったら感情のままに動くので、外では愉快らしいですが、私はずっとその犠牲です。

でも、天真爛漫な性格からみると、他人を傷つけたり、人から恨まれたりすることだけは絶対ないと信じています。」はうら若い頃から仲よく苦と楽を分けられた夫人の評。

私共 失礼すぎる話題にまでふれたことを御勘弁願ひ、仲睦まじい南御夫妻の末永い御幸福を念じながら帰路についた次第。

(岡 尚平、三枝熙和)

# 支部活動のあらまし

昨年10月現在で、関西支部には正会員 5,100 名と学生会員800名、合わせて6,000名近い会員がおり、これは全国の全会員数 28,400名の

約20.8%に相当している。上記の支部の正会員 5,100名については右の表のような構成になっている。✓

関西支部の会員構成 (昭和50年10月現在)

卒業年代		学歴		勤務地		業種							
明治	0.08%	大	学	院	12.92%	大	阪	60.33%	中	央	官	庁	2.45%
大正	0.80	旧	制	大	10.20	兵	庫	20.11	公	共	企	体	6.50
昭和 2~10	3.39	新	制	大	54.67	京	都	8.97	地	方	自	校	18.04
11~20	7.28	旧	制	大	8.23	奈	良	1.89	学	協	治	会	9.26
21~30	13.08	短	制	大	0.97	和	山	1.87	民	の	間	他	0.25
31~40	23.55	新	制	高	6.07	滋	賀	2.72	そ				48.62
41~50	51.56	旧	制	中	1.15	福	井	2.65					0.25
		新	制	高	4.85								
		高	制	校	0.76								
		他	の	明	0.18								
不	0.26	不				不	明	1.46	不	明			14.63
合	100.0%				100.0%			100.0%					100.0%

このように、年令・職域など多種多様な会員諸氏の御希望に広く応えうるよう、支部の事業を運営してゆくことは大変困難なことであるが、現在、関西支部では、各職域から選出された優秀な幹事さん達が、この頁の下欄にあるように、総務・経理・企画・編集という4つのグループに分れて支部活動のお膳立つくりを担当している。

これらの4つのグループは、それぞれ個々に幹事会(担当幹事会と称している)を平均月1回くらい、熱心な時には終電間際まで支部の事務局で作業をして貰ったことが何回もある。このようなグループ別の担当幹事会のほかに、2ヶ月に1回くらいの割合で、支部長、副支部長と幹事全員で全体幹事会を開いている。ここでは、各種の事業活動の基本的な方針や年間計画、5月の通常総会、年次学術講演会の実施案や、予算・決算、“支部だより”の編集方針などが協議される。また年3回開かれる商談会員に先立って、その提出原案も相談される。

幹事諸氏には、ここにのべたようになりの頻度で幹事会に出席して、それぞれの担当の分野で支部活動に協力して貰うほか、講習会や研

修会の企画、運営の当番も回って来る。これに当るとサブテーマの編成、講師の選定や参加者への呼びかけなどなど、各職域での本職そっちのけで……といえれば問題だが、それに負けないくらい、熱心に種々協力をして貰っている。幸い事務局も少数精鋭で頑張ってくれている。

会員諸氏に毎月お届けしている「支部行事案内」や、学会誌の「会告欄」を御覧になると毎月毎月の支部行事が盛沢山に並んでいる。これらの行事を企画し、実施に移している幹事会運営のごく一端をご紹介します。

会員諸氏からの建設的なご意見は、今後もしどしと採り入れて、なるべく多くの会員諸氏が、有意義に利用し、身近かに感じて貰えるような関西支部にしたいと願っている。

(幹事長 天野光三)

### 支部よりのお願い

今年も「関西の土木工事の概要」の発行を予定しています。事務局の目とどかない工事もありますので、目新しいプロジェクトはどしどし御連絡下さい。

この冊子のイラストは難波璋氏による。

### 昭和50年度 幹事会の構成 (○印は主査)

支部長	伊藤 富雄	副支部長	竹元 千多留	浜野 春雄	幹事長	天野 光三
幹事	(総務) ○一力 純	永井 康平	松井 保	松橋 数保	吉村 清宏	
	(会計) ○宮村 善保	稲見 悦彦	佐野 寛	中部 清八		
	(企画) ○今本 博健	鶴飼 光夫	桑原 弥介	小林 紘士	園田 恵一郎	
	手島 聖二	山口 昇				
	(編集) ○岡 尚平	足立 紀尚	三枝 熙和	桜井 春輔	西澤 寛	